

法華大觀語

卷一



東語大觀語法卷一

泰興吳人達編述

緒論

語

法

余讀日本文學史上古無文字可考所謂歌謠時代僅以言語述之傳自世人一般口碑而已世所傳肥人書薩人書一二五作「」雖稍稍有文字思想然第如埃及古昔摹畫日月形狀以爲識別迨百濟國阿直岐王仁齋易經論語千字文山海經等書至日爲漢文輸入之始於是日本始有文字其時當應仁天皇朝我國晉武帝太康六年也隋唐以來益益交通留學生之派遣中土者不絕於道古備眞備乃假漢字偏旁造字母五十是爲片假字其後弘法大師空海復假漢字草書作字母五十是爲平假字平假之用視片假尤夥文牘之作必書平假其慣例然也其中復分訓讀音讀兩種就漢字義以其固有之音讀之謂之訓讀如ヤマ(山)ミヅ(水)是沿用漢土傳來之音謂之音讀如サンズ井(山水)是大約口語訓讀多文語音讀多單詞用訓讀疊詞用音讀此其大較也自江戸時代之和漢混合文出一掃漢文難澁之弊言文一致燒

點於茲教育普及原功匪淺彼中鉅子方且主張國字改良之說研求無已文明之進庸有既乎茲先述厥崖略次分二章詳論文字之由來與音韻之轉變

第一章 文字之由來

第一節 總說

表人思想之聲音爲言語表言語之符號爲文字

言語有國語方言之別國語者國與國不同例如英之言語爲英國國語德之言語爲德國國語方言者一國之中此地言語與彼地異其用限於一方例如江蘇有江蘇方言廣東有廣東方言日本亦然九州語不可通於奧羽是方言之異也無國語則言語不能統一而教育一切進步難日本通行全國者爲純粹東京語下所編輯是也日本表國語文字有假名漢字兩種假名主表音漢字主表意義

第二節 片假字平假字

假字者節取漢字偏旁而爲之字母也分片假字與平假字兩種片假字出自漢字眞楷平假字出自漢字草書片假字字數本來五十其字形及排列順序如左

語

法

アイウエオ
カキクケコ
サシスセソ
タチツテト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤレユイヨ
ヲリルレロ
ワヰ于エヲ

以上謂之五十音圖此圖爲學日語所必要宜熟誦之レ于三字普通不用故廢之
代以イエウ字數實四十七流傳既久仍呼五十音
平假字字形及排列順序如左

あいうえを
かきくけこ
さしすせそ
たちつてと
なにぬねの
はひふへほ
まみむめも
やいゆえよ
らりるれろ
わゐうゑを

語

法

此外又有變體假字列之如左

東語大觀卷一

變體假字

あ
阿音

い

う

ね

お
於音

か
可音
あ
同上

き
幾音
あ
伎音
た
起音

く
久音
あ
九音
多
具音

け
希音
あ
下音

こ
古音
あ
許音
了
已音

さ
左音
あ
佐音

し
之音
あ
志音

誦

能	彌	怒	丹	奈	登	天	闕	知	多	曾	世	須
音	音	音	音	音	音	音	音	音	音	音	音	音
乃	年	努	爾	那	止	亭	徒		楚		勢	春
音	音	音	音	音	音	音	音		音		音	音
			二			手	津		堂			
			小			天						
			爾									
			耳									
			音									

東語大觀之一

變體假字

法

語

は 比 者訓 盤音 為同 八音
ひ 比 飛音 同
ふ 布音 婦
へ 遍音 倍
ほ 保音 不本
ま 滿音 万末
み 三訓 美音
む 無音 舞
め 免音
も 毛音 茂
や 屋音
ゆ 由音

東語大觀卷一

變體假字

法

金

字音乎
茂音越

七

平假字一稱いろは假字

伊呂波歌 日僧弘法大師
空海所作也

いろはにほへと

ちりぬるを

わかよたれそ

つねならむ

うゐのおくやま

けふこゝで

あさきゆめみし

ゑひもせす

歌意謂花色雖美亦既謝矣人生誰能長住今日超脫塵界回首往事不過一場
夢耳

伊呂波歌漢字正體

法

語

伊呂半仁保邊止知刹奴疏乎知加與多利曾川欄奈良半宇井乃於久也柔竹不吉
 江天阿薩起弓文美之惠此毛世須

伊呂波歌漢字草體

以以呂波仁仁保邊止知刹利ぬ奴る留遠和加と與多
 禮る會津根奈奈羅む武字る爲乃於冬具屋也ま末計ふ不
 古江て天安や左き幾ゆ湯め女み美し之惠飛も毛せ世す
 コエテアヤサスキユメメミシるエヒモセセス

第三節 行段

五十音圖中「アイウエオ」縱行呼阿行「カキクケコ」呼加行此外佐行多行奈行
 末行波行也行良行和行皆倣之

五十音圖中「アカサタナハマヤラワ」橫列稱阿段イキシナニヒミレリ井橫列
 稱伊段此外字段衣段於段皆倣之

第四節 母韻子韻

於五十音圖中阿行五音稱母韻假字餘皆子韻

第五節 濁音半濁音清音

就前所舉假字尙有濁音半濁音及清音三種之分

濁音假字

語

ガギグゲゴ
がぎぐげこ

ザジズゼゾ
ざじずぜぞ

ダヂヅデド
だぢづでど

バビブベボ
ばびぶべぼ

ハビブベボ
はびぶべぼ

法

以上片假字與平假字之右肩加兩點爲濁音

半濁音假字

バビプペボ
ばびぶぺぼ

以上片假字與平假字之右肩加一圈點爲半濁音「カ」「サ」「タ」「ハ」各行無標點者爲清音假字

第六節 拗音假字直音假字

漢字傳來音甚複雜字母音不足以盡讀之乃合兩字母音拚而爲一即我國之反切也如寄宿舍之「舍」シヤ旅人之「旅」リョ書物即書籍之「書」女_子之「女」其假字呼爲拗音假字拗音假字無特別文亦借片平假爲之特移其下方之字於稍右字體略寫小以別之普通用凡七十六字如左

キヤ キユ キヨ

シヤ シユ シヨ

チャ チュ チョ

ニヤ ニユ ニヨ

きゃ きゅ きょ

しゃ しゅ しょ

ちゃ ちゅ ちょ

にゃ にゅ にょ

語

法

ヒヤ ヒ

ミヤ ミ ム ミヨ

リヤ リ ム リヨ

クラ

普通 以上片假字

以上平假字

右清音

ギヤ ギ ユ ギ

ジャ ジ ユ ジ

ヂヤ ズ ヌ ズ

ビヤ ビ ユ ビ

以上片假字

以上平假字

右濁音

ひゃ ひゅ ひょ

みゃ みゅ みょ

りゃ りゅ りょ

くわ

ぎゃ ぎゅ ぎょ

じゃ じゅ じょ

ぢゃ ぢゅ ぢょ

びゃ びゅ びょ

ぐわ

ビヤ ビュ ビヨ

以上片假字

以上平假字

びや びゅ びょ

右半濁音

對於拗音假字之「キ」「シ」「チ」「ニ」「ヒ」「ミ」「リ」又「ヂ」「ビ」「ポ」其假字呼爲直音假字

第七節 省略假字

連寫二字時代以便宜之字略其點畫如一字謂之省略假字又稱合略假字通用之字如左

平假字 と(こと) ふ(より) へ(ナリ)

片假字 フ(コト) 片(トキ) 片(トモ) メ(シテ)

日人凡一切正式文牘不用省略假字

第八節 撥呼音假字

撥呼音一稱鼻音發音時將舌密接上齦而音出於鼻如「讀ンデ」「飛ンデ」本屋之「本」^{ホン}蜜柑之「柑」^{カン}是此假字呼爲撥呼音假字書如左

東語大觀卷一 省略假字 撥呼音假字

ン片假字 ん平假字

第九節 促呼音假字

兩音相接時跳過其中之音若氣息之促如屹度立派依ッテ此假字呼爲促呼音假字用タ行之ッ寫於右側略小與尋常之ッ別例如

云ッタ片假字 買ッテ平假字

第十節 長呼音符踊字

延長一音之韻而讀之其符號用「」呼爲長呼音符例如

ホーリッ法律 ボーシ帽子

長呼音符無片平假之分

踊字即重複之符號字也有一字重複與兩字以上重複之分例如「チチ」ダンダン」是也其片平假如

＼片假一字代用 く兩字以上代用

＼平假一字代用 く兩字以上代用

以上符號謂之踊字

此外漢字踊字亦分兩種如「萬々」「珍重々々」「草々」「草々々々」之類

第十一節 漢字

自支那傳來之字總稱漢字漢字之數據字典約四五萬日本所用之字不過三千乃至五千耳

第十二節 新漢字

日本仿漢字形杜撰之字不一而足日人謂之和字另緝奇字表附後茲特舉其例

辻ツヂ (十字街)

迎トテモ

(畢竟)

込コム (入也)

榊サカキ (木名)

風ユ

ガラシ

(秋冬疾風又稱木枯)

峠タウゲ (山頂也)

悴セガレ (稱已子)

俳オモ

カゲ (面色也様子也)

第十三節 和訓

日人有取漢字而另爲解釋者與漢字原意大異謂之國訓不加注解罕有能通者茲略舉其例

東語大觀卷一 音讀訓讀 字音

一六

椿ツバキ (山茶花漢字原意樟漆) 沖 (澳) オキ (洋中也郊野也山林深處也漢字原意飛

也又幼小) 嵐アラシ (暴風雨) 拟 (偕) サテ (發語詞然而之意漢字原意挾取也)

萩ハギ (胡枝花漢字原意蒿也)

第十四節 音讀訓讀

漢字有音有意義就字母合漢字之音讀之謂之音讀如

上下 シヤウカ 左右 サユウ

是也就日本舊有之土音而讀漢字之意義謂之訓讀如

上下 ウヘシタ 左右 ヒダリミギ

是也

第十五節 字音

漢字之音傳自中土時代既有先後方域亦非一處參伍錯綜頗難一致區其種類可

別爲四

吳音